

市民との対話事業 **市長とふれあいトーク**

実施日時	平成 26 年 11 月 27 日 (木) (19 : 00~20 : 15)		
実施場所	上田原集会所	参加人数	20 人
参加対象	三ツ山、蕨平、上田原		
懇談内容	<p><b>【1. 発言者】</b>          高齢化が進んで軒数も減ってきた中で、嘱託員や農区長などができなくなる集落もあると思うが、市はどのように考えるか。</p> <p><b>【市 長】</b>          1つの集落だけで厳しかったら、他の集落と協力することも検討してほしい。また、中条飛渡振興会の中で解決策を考えられるとありがたい。</p> <p><b>【2. 発言者】</b>          上田原の中で、バスの回転場がないのでつくってほしい。</p> <p><b>【市 長】</b>          具体的な場所が分からないので、後日、建設関係の職員を派遣する。</p> <p><b>【3. 発言者】</b>          まだ、お嫁さんがいない人たちもいるが、「エフエムとおかまち」でやっている「出会いイベント」は市内の人達が対象だと思うので、都会から十日町に来たい人と地元の人とでお見合いなどができればと思う。</p> <p><b>【市 長】</b>          「エフエムとおかまち」のイベントは、市が委託したもので、市外の人でも構わないが、確かに市民向きである。これからは外の皆さんと交流し、出会う機会を積極的につくることが大事。農作業をとおしての出会いの場づくりなど、様々な方々に協力をお願いしている。</p> <p><b>【4. 発言者】</b>          進学等で市外に出た子どもが、十日町に帰って来たくても職がないので戻れない。働く場所があれば、子どもも帰って来ることができる。</p> <p><b>【市 長】</b>          家から通って働ける場所を確保するために、企業の設備投資を支援し、雇用増に繋がっている。最近では J R 東日本の食品工場も操業を開始して、50 名規模の雇用の場となることを期待している。</p> <p><b>【5. 発言者】</b>          高齢化、人口減少により、集落が存続できるかというところまできている。「田毎の月」の観月会をやるといっても集落だけではできず、地域おこし協力隊（以下、協力隊）やボランティアの皆さんを募った中で</p>		

やっている。交流人口も良いが中山間地の定住人口を増やしてほしい。

**【市長】**

仕事と住む場所が必要である。都会にはよくある、シェアハウスを中条の中山間地と松代につくろうと考えている。

農業を通じながら集落の人と交流し、中山間地の生活の良さを感じてもらおう。シェアハウスで住む場所の問題は少しでも解決できるのではと考えている。どこか良い場所があれば教えてほしい。

仕事に関しては、松代に移住した方のケースでは、ご主人は農水省からの補助金を受けながら農業、冬はスキー場勤務、奥さんはパート勤務。縁もゆかりもない人が十日町で生活できる1つの可能性を示している。

**【6. 発言者】**

農業をやりたいという人には良いが、農業だけではやっていけず、ここでの生活を断念せざるを得なくなっているところもある。

**【市長】**

都会の生活は確かに楽しい部分もあるが、隣人が誰か分からない、通勤は1時間以上の満員電車と、こちらの生活を羨ましく思う人は増えている。そういう人を受け入れてほしい。この地域は大地の芸術祭の経験もあり、外の人を受け入れる土壌ができています。協力隊も上手く馴染むことができた。無いものは無いが、私は自信を持って、ここの皆さんの生活は豊かで質が高いと言える。多分、お孫さんたちがそういう感覚を持っているかもしれない。